

2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年1月20日作成)

小委員会名	あまみずのこれからを考える小委員会		主 査 名：笠井利浩 就任年月：2023年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)		委員長名：大岡龍三 主 査 名：笠井利浩
設 置 期 間	2023年4月 ～ 2025年3月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>持続可能な社会の構築を目標に、気候変動に対応できる街づくりとして建築とその周辺をうまく活用した水循環のありかたを考え直す。また、都市における雨水をはじめとする水の利活用と流出抑制に向けて、人々の Well-being を目指した生活技術やデザインの融合を考える。</p> <p>初年度：街中の雨の「お困りごと」事例を集め、その中から代表的なものについて取り上げて調査を行い、定量的な評価を行う。その過程で、評価項目や評価手法について委員の知見を持ち寄って検討を行う。</p> <p>2年度：初年度の議論の結果を基に、評価項目や評価手法について整理する。それを基に、1、2件フィールドを選定して対策の効果を検証する。2年間の委員会活動の纏めとして建築学会大会等で公表する。</p>		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	主査：笠井利浩(福井工業大学) 幹事：平山由佳理(工学院大学) 委員：尾崎昂嗣(アールアクト・ユー・レゾリューションズ)、笹川みちる(NPO 雨水市民の会)、宋城基(広島工業大学)、摺木剛(丸一)、向山雅之(竹中工務店)、青木一義(西原衛生工業所)、小川幸正(NPO 雨水市民の会)、江曉歆(千葉大学)、日高規晃(日盛興産)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2023年度予算	30,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 当初の委員会開催計画(6回)に対し、隔月1回の委員会を継続的に実施している。関連の団体等との情報交換を行うと共に当初予定の事例収集が行えた。
委員会活動の問題点・課題	1. 水環境運営委員会内の小委員会には、取り扱う内容の共通点が高い委員会があるため、連携を密にして活動を行いたい。また、雨水活用のこれからを考えるためには様々な分野が絡むが、新メンバーの参画が少ない状況にある。

- *小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- *中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価 (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>前小委員会の流れからオンライン開催で隔月、年6回の委員会を開催し、活発な意見交換、情報共有などが行えた。具体的には、街中の雨の「お困りごと」事例について各委員から事例を集めることができた。今後はその中から代表的なものについて取り上げて詳細な調査や評価手法を検討してゆく。</p> <p>しかしながらその一方で、前項の委員会活動の問題点・課題にも書いたように、雨水活用のこれからのを考えるには幅広い専門知識が要求される。今後は、建築学会以外の学会からもメンバーを募り、幅広い議論を行わねばならないと考える。</p>

- 総合評価は4段階 (A>B>C>D) にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。